

おおくら 議会だより

私たちの夢は未来に叶うだろうか？
きっと叶うよ！

WILL MY DREAM COMES TRUE
IN THE FUTURE?



昭和から平成へとなりちょうど30年、そして新しい時代へ！
その大きな変革の年にふさわしいメッセージではないでしょうか。
塩地区の柿崎正敏さんが自作した車庫から…村民の皆さんに！



もくじ

年頭のごあいさつ	2P
12月定例会	3P
一般質問	4~9P
議会報告会	10~11P
そうだったの！村議会	12P

風水にふれる里

第 **118** 号

2019.新春

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。本村議会活動につきましては日頃より格別な御支援助と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返って見ますと冬期は大雪にみまわれ、夏は高温・干ばつ、そして八月に入って二度にわたり集中豪雨があり村全体が農地・農道・河川などに大きな災害が発生し被害は甚大で、議会でも一日も早い復興に取り組んでいる次第であります。

村の某幹産業の稲作は平年並み以下でしたが、園芸作物につきましては高値で取引されたことが唯一救いでありました。ひきつづき農業産業復興、少子高齢化、人口減少抑制に一層努力して参りたいと思っています。

一昨年より、議会改革として議会報告会を始めまして議員二班に分けて住民と対話を重点において各地区を廻っています。皆様から頂戴した貴重なご意見を検討し村政に活かしたいと思っています。議会一九となって努力して参る所在ですので、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後に今年度は千支「亥の年」で商売繁盛に繋がると考えられています。亥のように元気な大蔵村に、そして村全体が活気ある村、そして村民皆様の幸多き一年になりますように心からご祈念申し上げ年頭のごあいさつと致します。

議長
鈴木君徳



本年もよろしく
お願いいたします。

- 議長 鈴木君徳
- 副議長 佐藤勝
- 議員 中島幸夫
- 議員 長南正一
- 議員 八鍬信一
- 議員 矢口智
- 議員 海藤邦夫
- 議員 加藤忠己
- 議員 早坂民奈
- 議員 佐藤雅之



豪雨災害復旧前進 ふるさと納税さらに伸びる

12月定例会が6日から7日にかけて開催され、30年度補正予算7議案を含め、11議案を審議・可決。一般質問では6人が村当局の考えをただしました。

条例等の改正

- ★大蔵村特別職の給与に関する条例の一部改正（人事院勧告による期末手当の改正）
- ★大蔵村一般職の給与に関する条例の一部改正（人事院勧告による期末手当の改正）
- ★大蔵村税条例の一部改正（地方税法の改正に伴うもの）
- ★肘折浄水場膜ろ過設備設置工事請負契約の一部変更（工事中の肘折地区水道施設）

30年度予算

●平成30年度補正予算7議案を可決（ふるさと納税謝礼品、子ども・子育て支援事業計画、農産物等災害対策事業補助）



平成30年度補正予算

	補正額	総額	主な補正内容
① 一般会計	4100万円	42億7320万円	ふるさと納税、災害関連
② 国保会計	1270万円	4億9600万円	基金の積み立て等
③ 簡易水道	14万円	2億666万円	管理費、水道布設費の増減
④ 下水道	128万円	1億8380万円	工事費の増
⑤ 診療所	▼116万円	2億2680万円	委託料、工事費の減
⑥ 介護保険	2450万円	4億7690万円	サービス給付費の増
⑦ 浄化槽	17万円	2810万円	管理委託料の増

一般質問

議案審議に先立ち
六名の議員が一般質問

- ★佐藤 勝 議員 「災害復旧支援等」 P 4
- ★早坂民奈議員 「子育て支援策等」 P 5
- ★長南 正一 議員 「豪雨災害復旧」 P 6
- ★佐藤 雅之 議員 「村営バスサービス向上」 P 7
- ★矢口 智 議員 「清水合海・まちなかに夢を2」 P 8
- ★海藤 邦夫 議員 「豪雨被害の対策等」 P 9



佐藤 勝 議員

災害支援対策方針は？ 村長 当面小規模災害補助事業 で対応

問1 過去に経験した事のない災害があった。復旧作業には全力で取り組んでいるが、なかなか進歩しない。特に農業関係の復旧は後回しになりがちで、春の作付けに間に合わない事が予想される。

答1 災害発生後、約1週間で被害状況の確認を行った結果、800を超える被災地があり、復旧補助申請件数は204件で、すでに着手しているのを合わせて約300箇所が今年度中に完成すると思うが、山間地域の復旧が遅れている。

また、復旧箇所の順番を決定する際、国会議員や報道関係に注目された被災地が優先される傾向に思えるが、被害の大小とは注目度に関わらず、各被災者の負担割合の大きさも考慮すべきではないか。

答1 災害発生後、約1週間で被害状況の確認を行った結果、800を超える被災地があり、復旧補助申請件数は204件で、すでに着手しているのを合わせて約300箇所が今年度中に完成すると思うが、山間地域の復旧が遅れている。農用地の復旧には受益者負担がある。村独自の補助制度を用い早い普及を目指すが、注目を集めた箇所が優先になる事はない。



災害復旧

問2 小規模災害補助は、上限が40万円で半分が補助対象であり、上限を超える分は自己負担となる。補助事業は原状復帰が原則とあるが、小さな田んぼに多くの経費をかけて稲作を継続するより離農者が多くなる危険がある。また、それを見透かした農政にも見える現場にあった制度への見直しも必要なのでは。

答2 原状復帰には多くの経費がかかり受益者負担が多くなる。理不尽な所や、制度の見直し等、国や県に要望するのも長の役目であり、多方面から要望する。

限界集落や耕作放棄地をどう する？ 村長 住民の意識改革が大事

問 高齢化や人口減少で、農地や空家・公共施設等の放棄が多くなった。それと関連して、そこに残った住民の生活負担が重くなり、それに耐えられず集落を離れる。俗にこれを「限界集落」と言う。

多種多様な対策を講じて来たが効果はなく、むしろ加速しているのが現状。この事は、金や机の上で解決出来る事ではなく、非常に難しい問題であるが、だからこそ行政は目を背けたり蓋をしてはならない。また、思い切った政策転換も必要と思うが、村長はどう考えるのか。

答 「限界集落」とは、人口の半分が65歳を超えているのが定義となっている。耕作放棄により、水田や山林の持つ保水機能の劣化などで、土砂災害の要因にもなる。この問題は非常に根深いものがあり、村だけではなく、住民の理解と意識の変化が大切。また、要望があり可能であれば、集団移転も前向きに考える。



空家に続く生活道路



早坂 民奈 議員

子育て支援の拡大充実を 村長 小さい村だからこそできる 環境を目標とする

問1 産休明けすぐに職場復帰したくとも、村では2ヶ月からの受入れが出来ない。新庄の認可外は預けられるが、市では認可に向けて移行している。認可になると他町村の子どもは預けられなくなる。広域で対応できないか。又精神面での支援としてファミリーサポートがある。他町で導入しており、村でも導入の考えはないか。

答1 0歳児の受入れ枠拡大は有資格者の確保や財政負担の課題もあり、又、既存施設の利用のため困難な状況。認可・認可外を問わず、その施設の定員内であれば受け入れ可能と捉えている。広域での対応は現行のままの受入れとする。保健師が母子手帳交付の時から相談に乗っており、他町村と比較しても常に寄り添う姿勢で対応している。小さい村だからこそできる環境を整え、応援をしてゆく。



問2 認可保育所の受入れは制度上大丈夫だが、実際は難しい。認可外に預けた場合の補助を第1子からして欲しい。ファミリーサポートは母親の精神面でのフォローに大変役立つ。又、子どもたちが安心して遊べる児童公園の整備も必要ではないか。

答2 第2子からと施設ごと補助している。誕生から他の町村に負けない優れた支援をしている。良い事は取り入れて、子育ても安心してできるよう施策を打ち立ててゆく。

高齢者向け住宅の考えは 村長 利用者を限定した建設は 考えていない

問1 高齢者の方がたは「除雪が大変でこのまま村に住み続けるのが無理」との声がよく聞かれる。高齢者向けの村営住宅の建設の考えはあるか。

答1 一人暮らし老人等の除雪扶助や冬期間の巡回事業をし、支援している。翠明荘に生活支援ハウス「翠」を併設している。冬期間の利用も可能ですので相談してほしい。

将来的には交流施設的な施設と連携した集合住宅が必要ではないかと思うが、使用料等の自己負担や建設費用など財政的課題もあり、利用者を限定した村営住宅の建設は考えていない。



問2 子育て住宅の敷地内に造成しては。



長南 正一 議員

豪雨災害の復旧度合いと今後の目途は 村長 激甚災害の指定も国に要望し、早期の復旧をめざす

問 8月の2度にわたる集中豪雨で自然の破壊力と恐怖を経験した。調査では村内で大小800か所を超える道路や河川、耕地や水路などの被害が確認された。村による被災者の窓口相談、中山間の直接支払の活用、小規模災害復旧費用の補助率の引き上げなどは被災住民への大きな励みとなった。他方で、比較的規模の大きい災害については、いまだ手付かずの状況にある。12月以降は降雪期にもあたり復旧に支障も想定される。県の災害復旧予算が決定された中で、迅速な復旧を県に求めるとともに、基幹道路や国道など、住民の関心があるところは復旧の目途を示してほしい。

答 農地、農業施設については、農林水産物等災害対策事業による災害復旧事業の申請件数が、204件の事業費は6千3百60万円。

内訳は、小規模農地等災害緊急復旧事業で申請件数195件、事業費5千6百59万円。うち完了件数は69件、35.4%、完了事業費は1千8百18万円。その補助金額は1千3百17万円などとなっている。現在完了確認済みの所の補助金については11月中に支払を終えている。

現在工事中の約80件は、完了を確認次第年内中に支払う。残る50件は、山間地域で秋の長雨によって圃場がぬかるみ重機の乗り入れができないことや今後の融雪による崩落も懸念される。当事者からは雪解け後の着工希望もあり、県と協議をしている。



豪雨による農地被害

公共土木施設については、これまで経験したことのない大雨が長期間にわたったことにより被害を拡大したと思われる。土砂の道路上への流出は、その都度土砂の撤去作業を行っているが、

来春の融雪時に再度道路等に土砂が流出することも予想され、対応が必要。国道、県道、県の管理河川も発災後3年以内に復旧工事を完成すると聞いている。

また、大きな災害を復旧するためには、膨大な労力と予算が必要だが、公共土木施設災害復旧事業では、

国庫負担などで県や村の財政負担が軽減される。ただ、国からの支援には、様々な手順を経る必要がある。今回の災害については、

村の財政負担が更に軽減されるよう激甚災害の指定を強く要望してゆく。一日も早く災害復旧工事が完成できるように努め、関係機関へも要望する。

佐藤 雅之 議員



村営バス(肘折温泉―新庄線)のサービス向上を 村長 交通事情や地域特性を踏まえ総合的に検討

問 山形交通のバスの廃止に伴い、「足の確保」を最優先に村営バス(肘折温泉―新庄線)を運行して1年半以上が経過する。観光目的や通院、通勤、買い物など利用者間の「ニーズ」にバラツキはあるが、既存の「足の確保」に加えサービスの向上を図るべき。①金山地区なども経由する臨時便の創設②音声ガイドによる旅情を誘う観光案内や「昔語り」住民情報の提供など、

村営バスが、観光客も住民も楽しめる「憩いのひと時」を提供できる空間にならないか。

答 平成29年4月より運行を開始した肘折ゆけむりライン「肘折温泉―新庄線」は、運行開始から1年半で利用者は4万人を越えた。今年度は昨年度と比較して利用者が7%増加している。

① 運行路線の拡大は、金山地区については、スクールバス混乗便、また四

ヶ村地区については、スクールバス混乗便と自家用有償旅客運送の循環バスを地区内で運行しており、診療所等へ向かうには、「肘折温泉―新庄線」に乗り継いでいる。「乗り継ぎなしの利用」となると村内全域を同じ料金体系にしなければならなくなる。また、

国や県からの補助条件がクリアできなくなる恐れもある。

「肘折温泉―新庄線」は生活路線でありながら観光客の移動手段でもあり、多様な要望がある。大変難しい問題。優先順位や経費などを考慮して、時間をかけて検討・見直しを図りたい。

② 音声ガイドの整備は、設備の導入効果や費用対効果について今後検討する。観光案内や情報発信は、パンフレット等で行いたい。

高齢化が進展する中、住民の移動手段の確保は喫緊の課題。交通事情や地域特性を踏まえ、総合的に検討する。

補助金活用で電気自動車充電設備の整備を 村長 電気自動車の普及を注視し、検討

問 環境対応の中で、電気自動車が急激に増えることが予想される。それに伴い全国各地に電気自動車専用の充電設備の設置が広がっている。本村来訪者の交通手段に占める自家用車の割合が高い。国の補助金も活用して公共的な施設にも設

置を急ぐべきではないか。

答 最上地域の設置状況は、現在19ヶ所登録されている。公共施設では、金山町のみ。村内での自動車登録数や観光客が乗り入れる電気自動車等は少なからず増加傾向にあると考える。

電気自動車の普及が図ら



れると思うのでその推移を注視し、設置場所についても、庁舎がいいのか、観光地がいいのか十分に検討したい。





問 ①中山間地域の土石流、地滑り等、土砂災害にどう対処するか。

8月5日の集中豪雨による土砂流失、崩壊等による被害が、見えない所を含め900ヶ所を越えている。特に中山間の土砂災害が多く、このままでは稲作をあきらめ耕作放棄地が増える懸念がある。耕作放棄地が増え、農家が減るこ

とにより、過疎化が進み人口減少につながるのではないか。今後の中山間農業に対する方針は。

答 ②清水、合海地区の内水対策は。

最上川の水門を閉めた為、今までにない水量の内水が増水した。短時間で早めに水が引いたため被害は少なかったが、水門を閉じた状態が長引けば内水の増水も予想される。烏川向かい

のトンネルからの流入も関係しているのか、今後の内水の増水対策は。

答 ①棚田は傾斜地・急傾斜地が多く畦畔の法が長い為、1ヶ所あたりの被害が大きかった。また、中山間地域に限らず、人口減少による耕作放棄地はあるが、現在、今回の災害が起因しての離農の情報は把握していない。

国はロボット技術やICTの先端技術を活用した大規模圃場・大型機械化事業が先行し、中山間地域に対する対応が置き去りにされている。今後、日本の耕地面積の4割を占めている中山間地域農業にもっと目を向けた政策を、国や県に強く要望してゆく。

②今回は農地、道路の冠水と内水被害も甚大であった。内水は河川の



内水被害

豪雨災害に対する、村の今後の対策は

村長 地域住民と一体となった防災減災対策を図る



海藤 邦夫 議員

問 今年に入り、庁舎移転の構想が出され検討を行っている段階と聞く。役場を中心に診療施設、文化的施設、子育て支援施設があり、新たに宅地分譲も進めるまちなかなの中心地域の将来の姿は最も関心のあるところ。「役場庁舎をどうする」という一つの構想でなく、「清水・合海」まちなかの将来イメージを合わせて、村民に示す必要があると思うが。

答 庁舎移転後の歴史ある村の中心地をどのように考

えるのかとの質問だが、役場庁舎をどうすると言った構想だけでなく、将来的な公共施設のあり方、中心地域の将来像なども長期的な課題として検討したいと考えている。このことは、役場庁舎移転の有無にかかわらず、清水合海地区の活性化を考えなければならない課題。

ご承知のように、清水合海地区は、古くは最上川の舟運で栄えた地域。その舟運を統治するため、清水城が置かれ最上地域の大半を



「清水合海」まちなかに夢を2

村長 将来を見据えた計画を



矢口 智 議員

治めた歴史がある。さらに、創業400有余年の歴史を有し、最上地域で唯一の造り酒屋も。そうした資源を活用したまちづくりを行ってきたい。

現在、庁舎建設にあたって多方面から検討を行っているが、国の支援を得るがために急ぐよりも、清水・合海地区の村の中心地としての機能ともに、住民の方々に不便をかけることがないように、しっかりと将来を見据えた計画を進めたい。



位上昇により民地側に降った雨が河川に排出できなくなり、民地側の水位が上昇するものである。人家への浸水や人的被害をなくすためにも、自主防災組織による避難誘導活動や、洪水ハザードマップを活用した地域住民の防災意識

の高揚を図る。又、作の巻地区には排水ピットの設置を要望し、今後、清水・合海、白須賀地区についても整備を要望してゆく。

貴重なご意見 ありがとうございました。

◎報告会に先立ち、昨年度から議会報告会で意見のあった「議員定数・報酬」の見直し意見について、次期改選は現行の体制を変えず、10名で行うことを報告しました。

※開催地別に掲載しています。

肘折センター 12/3 「7名参加」

意見・質問内容 議会 議員定数、人口比で多い

回答・今後の対応

- 村事業 山間地域等農業機械導入事業に申請できるか 役場に直接問合せをお願いします
- 村事業 村営バスの利便性向上を(土日の午前の便を増やして) 担当課と協議します
- 村事業 少子化で保育所の存続も難しい状況、今の対策で充分か さらに検討します
- 広域 最上広域事務組合の事業、今後の課題は 人口減少に見あった運営が今後の課題
- 村事業 冬期除雪作業について、村と県の連携が悪い(肘折～大谷地間) 担当課に検討を依頼
- 村事業 共同浴場の再整備を考えてほしい 議会で検討します
- 村事業 旧郵便局舎の存続、維持管理を考えてほしい 議会で検討します
- 議会 地区で開催の各種行事に議員出席を望む 今後も配慮します
- 議会 冬場の来客者への対応として、新庄～肘折の中間地点に駐車スペースを要望 担当課と協議します
- 国・県 R458号湯の台地内の危険なカーブの改良を 県に要望しています

味来館 12/3 「7名参加」

意見・質問内容 議会 議会の世代交代を図る必要を感じる

回答・今後の対応

- 議会 地域間にこだわらず、村全体を考え問題解決を その通りです
- 議会 パソコン使いこなせている議員は何人いるのか 立場持ち場で頑張っています
- 議会 棚田米の新品種の開発に議員が率先して運動を 担当課と協議します
- 村事業 棚田サミットを成功につなげるよう取り組んでほしい 十分に配慮します
- 村事業 棚田サミット等、村全体の関心が薄い 十分に配慮します

南山交流センター 12/5 「12名参加」

意見・質問内容 村事業 高齢化や一人世帯等人口減少著しい

回答・今後の対応

- 村事業 住宅分譲地望みたいが 現在造成中
- 村事業 戸建ての村営住宅も増やすべき 今後の検討課題とします
- 村事業 除雪支援の体制づくり必要。集落ごとに組織作れないか 検討します
- 村事業 水力発電事業、国道までの道路整備必要(大型バス行けるよう) 担当課と協議します
- 村事業 豪雨災害、木遠田スノーシェッド確認しているか 担当課に確認します
- 村事業 のぞみ大橋、冬期すべて危険 担当課に要望します
- 村事業 肘折温泉・新庄線にボンネットバスの復活キャンペーンを 要望します

赤松センター 12/5 「6名参加」

意見・質問内容 村事業 肘折地区で建設中の防災センターとは

回答・今後の対応

- 村事業 肘折地区で建設中の防災センターとは 肘折地区の防災拠点施設
- 村事業 ふるさと納税、一人当たりの最高額は ※100万円の納税者が二人(後日確認)
- 議会 議会定数、人口比で多い
- 議会 議会定数、少ないと議論にならない恐れあり
- 議会 議会定数、少ないと執行部が強くなりすぎる恐れあり

白須賀センター 12/7 「9名参加」

意見・質問内容 議会 議会定数、人口比で多い。住民の声聞いているか

回答・今後の対応

- 議会 議会定数、人口比で多い。住民の声聞いているか 住民の意見を基に結論
- 議会 災害時の対応が遅い。議会がもっと主導して対応すべき 大いに反省しています
- 村事業 推進協議会の研修参加、若い世代ばかりでなく中心世代の参加も 担当課に伝えます
- 村事業 災害に対する備えが重要、役場の書類は大丈夫か 充分に対応しています
- 国・県 R458号改良事業、二日町線掘割部が狭い 担当課に確認します
- 国・県 消雪道路の具合が悪い(バルブの交換を) 担当課に確認します
- 村事業 中山間地の農業をどうするかもっと考えるべき 棚田サミットを良い機会に
- 村事業 地域おこし協力隊、まだ来ない 募集中ですが…
- 村事業 肘折温泉誘客、雪の活用をさらに キャンペーン実施中、さらに検討します
- 村事業 肘折温泉誘客、地元産品の活用推進を 担当課と協議します
- 村事業 いでゆ館誘客、雪ん子ホールの活用を考えるべき 担当課と協議します
- 村事業 水力発電事業進めているが、アピール(説明)が足りない 担当課に伝えます

中央公民館 12/7 「5名参加」

意見・質問内容 議会 議会定数、議論を重ねた結果であれば納得

回答・今後の対応

- 議会 議会定数、議論を重ねた結果であれば納得
- 議会 若い世代の挑戦を促す努力を議会でもっとやるべき 努力します
- 議会 村に政策提言を行うなど、目に見える活動を やります
- 議会 地区の連携に議員のリーダーシップ発揮を望む さらに努力します
- 議会 予算執行に関わる議論を深めるべき 努力します



大変お忙しい中にもかかわらず、
参加して下さった方々に
感謝申し上げます。 議員一同

そうだったの! 村議会

村議会の紹介コーナー

No.14

平成～新しい時代へ

— 議会の改革・検討を終えて —

4年前から、議員全員で議会のあり方や今後の方向性等について議論を重ねてきました。内部の改革も進めてきましたが、村民から意見が多い「議員定数・報酬」についても議論を重ね、次期村議選は定数・報酬共に変えずに行うことにしました。

— これから —

国が進める議会の制度改革の進展、村の人口の大きな減少、来春の村議選の結果等も含め、村議会も早い時期に大きな変化が訪れると予想しています。その次期議会で定数・報酬と併せ議会全般のあり方を検討するとともに、村民に見える、魅力ある議会にするための努力を重ねることを約束します。

— 新たに挑戦する方々に —

村民が元気で楽しく暮らしていけるように、夢中になって仕事に取り組む充実の毎日を送れるように、子どもたちが夢に向かって挑戦できるように。

★目指す志(課題・目標)

★立候補の環境(家族・仕事)

★支援の輪(組織・人脈)

村民生活の支えとなる議会に関心を持っていただき、挑戦する方が続いてきてくれることを願っています。



後書き

初雪が降った。

毎年の事だがこれを境に、慌ただしかった農作業や後片付けも終り、ほんのひと時身も心も休みになる。晴れ間を見て村を三回りして見た。

いつも初雪の時に見る光景だが、山間部は5寸、平地は一寸と違いに驚く。

車を走らせているうちふと気がついた。

村内の道路脇や高台には、赤い着物の地蔵様や、優しい顔をして手に斧を持った山の神様、旅人が頼った道祖神や水神様、赤い鳥居の稲荷様など、半分雪に埋もり寒風に晒されながら我慢強く立っている。

よく見ると、全部ではないが御供え物が見えない。昔は集落の誰とは言わず道を通る度、少しの物でも御供えをし手を合わせている光景が見られた。この御供え物も厳しい冬を耐え抜く鳥や獣の大切な糧となる。盗られても神様は決して怒らない。時代の流れと言えはそれまでだが、何となく心の貧しさを感じた。道の脇にあった地蔵様の前に車を停めて、飲みかけの物で申し訳ないがお茶を供えて合掌。

夏の間はご苦労さん。春まで頑張れよと声をかけながら。

(佐藤 勝記)



地蔵様と雪ホタル